3. マウスを動かす小さな手

私は車の構造には疎いですが、車の運転はできます。アイロンも洗濯機も使えます。掃除機も使い方を知っています（最近はホウキを愛用していますが）。ビデオの録画、再生もできます。テレビが発明されて、はや75年、ユーザの要望がテレビや周辺機器を現在のものにまで進化させました。いよいよ、パソコンもその段階に入って来たというのが、私の実感です。

私は、育児とフルタイムの仕事に追われる現代の多忙な母親たちの一人です。双子の子どもが赤ちゃんの頃は、睡眠時間の確保もおぼつかない毎日でした。１歳で保育所に子どもをお願いし、仕事に復帰しましたが、目のまわるような日々が続きました。我が家の「赤ちゃんザウルス」がやや「人間らしく」変化しはじめたころ、我が家のパソコンも家庭の中に定着し始めました。

私のパソコン歴は短いです。インターネットが今のように普及する以前のパソコンは、私にとっては難解な機械でした。仕事でノートパソコンを使ってはいましたが、家庭内での必要性はありませんでした。全くの文系人間の私は、パソコンの構造に関心もなかった上に、かえって最も必要としていた「時間」を取られてしまう厄介なものでしかなかったような気がします。

1997年、子どもたちが５歳の頃、我が家に ISDN 回線が導入されました。きっかけは、知人の苦情でした。「お宅の電話は夕方は壊れているの？日曜日はいつ電話しても話中ね」…夫のブラウジング(ネットサーフィン)が原因でした。苦情処理のために、ISDN にし、ルータを設置しました。元来好奇心が強い上に、

夫と同じような仕事をしていてデータの共有もしたかったため、家にある夫の PC と自分のノート PC を 10BASE-T でつなぐことから始めました。ケーブルのジャックの作り方は知人に教わりました。廊下をケーブルが這っているのは見栄えは良くありませんが、使用感は快適です。現在は２台のデスクトップと私のノート、夫のノートがネットワークでつながっています。職場でもルータを買い、LAN ボードを取り付け、２台の PC をつなぎました。１階下の部屋までケーブルを這わせ、ハブを経由して各自のノート PC が使えるようにしたかったのです。呆れてみていた周りの人も、見かねていろいろ手伝ってくれました。窓のサッシに穴をあけてくれたり、コンクリートの外壁にケーブルを固定するビスを打ち込んでくれたり力仕事を引き受けてくれました。

ハードウエアやデータの共有ができると、どこでもいつでも PC が使えます。子ども達の宿題を見ながら仕事ができ、料理をしながらキーボードが打てます。そのためか、私のノートは傷だらけになっています（>_<）。主婦にとっては、ランニングコストも非常に気になる点です。今以上に使用する為には、PC や周辺機器の機能向上の他に、インターネット接続料金が問題となります。常時接続にしたいのですが、現在の価格では一般市民には手が出ません。コストパフォーマンスの低い商品は、主婦なら買いません。

２年前、ひらがながやっと読める程度だった子ども達には、キーボード操作は無理でしたが、マウスの操作はあっと言う間に覚えました。現在は自分で PC を起動し、好きなソフトを選んで遊び、終わったら PC の電源を切る程度はできるようです（セーブしなくて、せっかく作ったデータが消えてしまうときもあるようですが）。飼っている亀の生態を調べたり、犬の病気を検索したり、植物の育て方をくわしく知るために、インターネットを使っています。小学校１年生に読める漢字は少ないので親が代読し、解説します。低学年が利用できる工夫が欲しいですね（特に音声面とキーボード操作面）。

子どもは知ったことは実際に実行したがります。実験や、体験がもたらす刺激はバーチャルな世界では得られないものです。子どもをみていると

「生きる力」はすべての子どもが潜在的に持っていると感じます。その力を伸ばしつつ、「考える力」や創造力をどう育てていくのかが大変重要だと思います。

「学校」だけでなく、「家庭」や「職場」や「地域社会」が協力して、21世紀を担う子ども達の教育を共に行う必要性を痛感しています。2002年に学校が完全週休２日制になり、子どもに「ゆとりの時間」ができても、家庭や地域の一員である大人達に家庭を顧みる余裕がない社会では、子どもは育ちません。問題意識はあるが、仕事に追われ、孤立している親達をつなぐ道具としても、インターネットが重要な働きをすることでしょう。

我が家のような一般家庭のリビングに、テレビのかわりにパソコンとその周辺機器（デジタルデータ全般を扱う機材）が置かれ、家庭と学校と地域社会がつながる時代、個人と世界がつながる時代が近いと感じています。

4. 家族で一緒にこんなこと

家族と一緒のいろいろなインターネットの使い方の例を挙げてみました。インターネットの使い方も、各家庭によって違いがあり、その家庭らしさが表れているようです。

(1) 調べ学習はやっぱりインターネット

ぼくは小学５年生、英寿です。今日、ぼくの学校の宿題は「作家・三島由紀夫について調べること」です。こういう宿題はパソコンを使うのが一番！探しやすい。情報の種類も多い。そして、プリンタを使えば、自分で苦労して情報を書き写す必要がないからです。

今回はＭＳＮサーチ（http://www.jp.msn.com/）で調べることにします。まず、検索前に「三島由紀夫」の正しい漢字を調べておきます。そして、検索項目に「三島由紀夫」と漢字で入力。検索結果3933件が見つかった。こんなにあると、ぼく１人ではどの情報を宿題に使ってよいのか分かりません。そこで、お母さんに手伝ってもらって項目の絞り込みをしてもらいます。

お母さん「三島由紀夫の何について調べたいの？--履歴？作品？遺書？」
ぼく「えっ、三島由紀夫って自殺したの？　…自決？どうして？僕ね、三島由紀夫の生いたちと自決について調べるよ」
ということで、「三島由紀夫 遺書」で再検索をすると 101 件に絞り込みができました。その中から、ぼくが分かりそうないくつかの項目をお母さんに選んでもらいファイルを開いて情報を取りこんだ後、一度回線を切ります。後はオフライン状態を確認して、じっくりと取り込んだ情報に目を通します。三島由紀夫がペンネームであること、その名前の由来、少年時代の異様な環境、などたくさんの情報が分かりやすくまとめて書いてあります。今回、検索した中で三島由紀夫 Cyber Museum（山中湖文学の森「三島由紀夫文学館」http://yamanakako.yamanashi.jp/bungaku/mishima/museum/museum.html）の中に、三島由紀夫が自分の気に入った作品を朗読している箇所（自作朗読）があり、これにはぼくのお父さんやお母さんも、「三島由紀夫の声が聞ける！」と驚いていました。三島由紀夫の声は写真を見て想像していた声とずいぶん違っていました。資料をプリンタで印刷して、ノートに貼り付けたりぼくなりにもう少しまとめました。最後にイヤホンジャックでパソコンとカセットテープレコーダをつなぎ三島由紀夫の朗読部分を録音して、ぼくの宿題は完了。

後日、先生から「英寿君の宿題（レポート）は、文字だけでなく、写真や音声などの色々な情報があって先生もとても楽しかったよ。これからのレポートも期待しているからね」とコメントをいただいて、「次はもっとすごいレポートを提出するぞ！」と、次の調べ学習の宿題が出るのを心待ちにしています。Cyber Museum には、英語のサイト（英語版の情報）もあるので、ぼくが学校で英語を習うようになったら英語版の調べ学習のレポートも書いてみたいです。

(2) インターネットは百科事典

学校の社会科の授業で公害問題を学習している時、酸性雨について調べてくるという宿題が出て、親子で一緒にインターネットを使って調べました。検索エンジンで結構簡単に資料を見つけることができ、酸性雨発生のしくみがカラフルな図で説明されていたり、その影響についても分かり易く例が示されていて、早速印刷して取り出し、調べ学習には非常に役に立つことが分かりました。

また夏休みに家族で山に旅行し、クワガタを捕まえた時も、早速インターネットで種類や飼い方なども調べました。家にある図鑑よりも写真がずうっーと大きく、しかも鮮明な画像で次々とクワガタの写真が見られ、親子で感動したものです。実際に飼育している人のアドバイスも楽しく読めました。

図鑑はとても価値あるものですが、全てを揃えていなくても、インターネットを使えば即座に調べることができるし、自宅に居ながらというのが、ほんとに便利 !! と実感です。

(3) 出勤中・出張中・単身赴任中のお父さんへ

ぼくのお父さんの会社では、会社の人みんなが、e-mail のアドレスを持っています。お父さんが、会社の e-mail のアドレスを持つまでは、ぼくたちは仕事中のお父さんに電話をかけたりして会社に連絡をしたことは一度もなかったのですが、お父さんのアドレスが分かってからは、ぼくも学校から帰ってお父さんに「今日のマラソン大会で３位になったよ」とか「今日

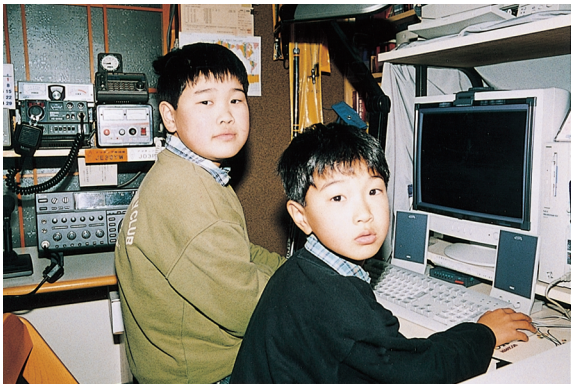
のテスト、全部できたよ」とかメールを入れるようになりました。お母さんも時々、今晩の食事のメニューをこっそりと送っているようです。

学校の運動会の日、お父さんが出張で学校に来られなかったので、お母さんはデジタルカメラで撮ったぼくや弟の演技や競技の様子(画像)にメッセージを添えて、その日の夕方にお父さんのところに送りました。お父さんからもすぐに返事が返ってくるので、運動会の興奮を家族みんなで共有できたようでうれしいです。

(4) お母さんとクイズラリー

ぼくは小学２年生、周平です。ぼくはインターネットを使って、お母さんとクイズラリーをしています。

ぼくからは、お母さんの知らない言葉――学校で、今、流行っている言葉・ゲームの名前・タレントやグループの名前――を問題にして出します。お母さんは、ぼくの出す問題で、学校で流行っている言葉を聞いて、「日本語は不可解でむずかしい」と言いながら、インターネットでその言葉を調べます。お母さんが調べた答えをぼくが見て、不正解だったらもう一度調べなおしてもらい、正解だったら次はお母さんからぼくに問題を出してもらいます。お母さんは、「野口英世は何をした人でしょう？」や「聖徳太子ってな～んだ？」というような問題を出します。ぼくがインターネットで調べた答えが「正解！」になると、とてもうれしいし、「ヤッター！」と言う感じで、おじいちゃんやおばあちゃんに自慢したくなります。



英寿君と周平君

クイズラリー以外では、ぼくは日本の歴史について調べることが好きです。最近は足利

一族のことを調べてから京都の等持院や金閣寺に行きました。インターネットに出てきた写真と同じ足利一族の木像やピカピカの金閣（金閣寺とは言わない）を現地で実際に見ることができた時は、とても興奮しました。インターネットには写真がたくさんあるので、文字が分からない時は、ぼくは写真を中心に見ます。前もって調べてから現地で本物を見ると、よく覚えられて楽しいです。みんなからも「君は歴史をよく知っていてすごいね」って言われるのは恥ずかしいけれどうれしいです。

(5) バーチャル工場見学を楽しもう！

ぼくの食べているお菓子は一体どうやって作られているのかなあ。調べてみたいけれど、図書館に行っても調べようがない。そんな時も、やっぱりインターネット。お菓子の袋に書いてあるホームページを開いてみる。

http://www.meiji.co.jp/karl　出た、出た、おなじみのキャラクターの「カールおじさん」。画面上の「カールのすべて」、「カールができるまで」をクリックしていきます。製菓会社だけあって、画面上の操作も簡単。ぼくでもできちゃう。「カールができるまで」でお菓子ができる製造工程を４つに分けて説明しています。それぞれの工程をクリックすると、一つ一つの工程を動画で見ることができます。カールがかまの中で膨れ上がっていくところから、包装された製品がコンベアーの上を移動しているようすがよくわかります。ぼくの食べているお菓子はこのようにしてできているんだ、と納得。　このホームページからチョコレート工場の見学までできて、やっぱりインターネットは面白い魔法の世界だ。

(6) インターネットでクーポン券をゲット！

我が家には、食べ盛りの子どもが３人。食い気一色です。だから、インターネットをしても食べることばかり。いざ、母のお財布を支えてくれる「クーポン券」をゲット！。

今日は、マクドナルドでお昼ご飯。「さぁ、みんな　何食べるぅ？」とまずは、お出かけ前にパソコンの前に全員集合。マクドナルドのホームページにアクセスして「お好きなクーポン券をどうぞ」のページを開きます。

各々が食べたいメニューをクリックしてプリントアウトすれば出来あがり。ちょっと安くなってお得な気分。出来あがったクーポン券を持って出発です。後は、注文時に渡せばOK！

マクドナルドに限らずいろんなファーストフード店、レストランのホームページからクーポン券や割引情報がゲットできます。よく行くお店は「お気に入り」に登録しておこう。

(7)『カラオケキング』でカラオケクィーンに？

カラオケソフト『カラオケキング』のユーザ登録をすれば、カラオケセットの機械がなくても、家庭で簡単にカラオケが楽しめます。

我が家のおばあちゃん（60才代）は、カラオケ大好き。十八番は、演歌・川中美幸。「おばあちゃん、たまにはニュー・ミュージックもいいわよ」とすすめる私（40才代）に対し、「私くらいの年令には似合わない。今時の歌は歌詞も分からないし…。あんなものは若いコの歌うものよ」と言いつつ、パソコン部屋から漏れる安室奈美恵の曲に合わせて歌っている声の主は一体だ〜れ。そういう私自身も「カラオケは嫌い。歌も知らないし、興味もない。誘われたって絶対に行かない！」と公言しつつ、家では密かに(?)アニメソング『名探偵コナン』の主題歌を声高らかに歌っているのです。